

令和元年度 文教委員会資料

【所管事務の調査（報告）】

若者文化の環境整備等に関する今後の進め方について

資 料 若者文化 環境整備等に関する今後の進め方について

参考資料 1 若者文化の発信によるまちづくりに向けた環境整備等に関する基本計画
(概要版)

参考資料 2 若者文化の発信によるまちづくりに向けたサウンディング型市場調査の
個別対話における主な提案内容

参考資料 3 川崎港緑化基本計画(抜粋)

市 民 文 化 局

(令和2年2月7日)

1. サウンディング調査の結果

「若者文化の発信によるまちづくりに向けた環境整備等に関する基本計画」において、非日常の施設を整備する方向とした、ちどり公園の有効活用（整備するコンテンツ及び施設、施設の整備・運営手法、ちどり公園全体の利活用）について、サウンディング型市場調査を実施

【実施概要】

- 令和元年10月16日：事業者説明会・現地見学会（3団体参加）
- 令和元年11月13、15日：個別対話（2団体参加）

【実施結果】

(1) 提案者

同計画に定めるコンテンツに関わりのある事業を行っている事業者

(2) 事業手法に関する主な意見（その他の意見については参考資料参照）

- 公園の一部を借り受けて民間事業者で整備し、その他を川崎市で整備する手法がよい。
- 整備自体は公園全体を一括で行い、一部の整備費用を川崎市に負担してもらいたい。
- 指定管理者制度を活用する。
- 公園の一部を民間事業者に貸し付け、施設を整備・管理運営する場合、土地の貸付料は無償でないといと経営は成り立たない。

2. ちどり公園について

【機能・役割】

京浜運河の眺望や心地よく感じる海風を積極的に活用し、休憩や散策で安らぎを与えるとともに、市街地の公園では確保できない広大なスペースにより、趣味やスポーツ等を気軽に楽しむことができる広く明るい開放的な空間を配置する。

【主な課題等】

アクセス：車でアクセスする際の道路脇の入口がわかりにくく、ルート変更等の検討が必要
施設：老朽化した施設のリニューアルが必要

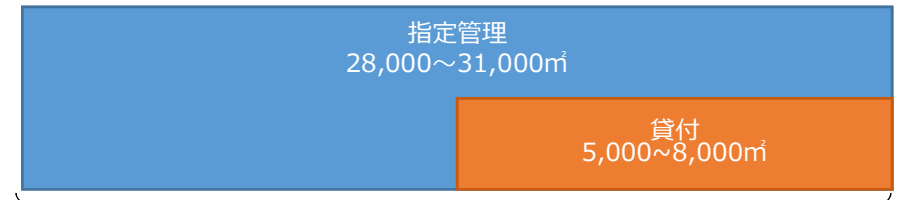
3. 取組の方向性

- サウンディング調査等によると、仮にちどり公園の一部を事業者に貸し付けたうえで、公園全体を施設整備する場合、貸付部分以外も含めて、全面的に民間事業者に負担を求めることは困難であり、市の支援が必要となる可能性が高い。
- ちどり公園の老朽化した施設をリニューアルする必要がある。

<事業スキーム検討の方向性>

- 若者文化の発信に寄与し、多くの集客を可能とする魅力ある施設とするためには、ちどり公園全体を一体的に整備・管理する必要があることから、選定した民間事業者が整備及び管理を一括して行う事業スキームを検討する。
- ちどり公園への若者文化の施設の導入に関するこれまでの国との協議から、5,000～8,000㎡程度を民間事業者に貸し付け、その他の区域については指定管理とする方向で検討する。
- 費用については、本市施策の実現に寄与するものであること、また、公園施設のリニューアルが必要であることから、指定管理部分については、市も整備費の一部を負担することを含めて費用負担のあり方を検討する。

<検討イメージ>



※ ちどり公園において整備するコンテンツについては、令和2年度の事業内容の詳細等の中で検討

4. 今後の進め方

※ 上記事業スキームを想定したスケジュールであり、手法も含めてさらなる検討を進めます。

● 令和2年4～8月

■ 事業スキームの検討

- これまでの検討結果等を踏まえ、本事業を一体で行う民間事業者を募集するための事業スキームの検討

■ 事業者募集条件等の検討

- 事業内容の詳細や、選定方法、選定基準、参加資格要件、リスク分担等を示した要求水準書及び募集要項の作成、本事業における本市財政負担額の積算

● 令和2年9～12月

■ 事業者公募開始

- 予算を伴う場合は、補正予算を含め予算措置を検討

■ 事業者・指定管理者（候補者）選定

- 指定管理者選定委員会（庁内設置）で、事業実施事業者・指定管理者（候補者）を選定→指定管理議案は3月議会に上程

● 令和3年1～3月

■ 基本協定締結

- 指定管理及び事業実施の方式などに関する基本事項を締結

■ 指定管理者選定

- 3月議会に指定管理議案を上程

● 令和3年4月～

■ 事業契約締結

- 設計・工事等の契約締結

■ 借地契約締結

- 5,000～8,000㎡部分の借地契約締結

■ 開設時期

- 令和3年10月以降を予定

若者文化の発信によるまちづくりに向けた環境整備等に関する基本計画（概要版）

参考資料1

1. 本計画の目的

若者文化の発信によるまちづくりに向けた基本方針（平成30(2018)年10月策定）に基づき、「若者文化に携わる市民一人ひとりが主役となって本市の若者文化を盛り上げていく」という基本的な考え方のもと、「若者文化に携わる市民が協働・連携して地域を盛り上げていく環境と安全・安心に活動できる環境」の整備に向け、ハード面における具体的なコンテンツやニーズ調査等を踏まえた環境整備、ソフト面における取組の方向性、今後概ね10年間のスケジュール等について定めるもの

2. 本計画における若者文化を構成するコンテンツ等

コンテンツ	施設	コンテンツ	施設
スケートボード	スケートパーク	BMXフラットランド	ダンスステージ
BMXフリースタイル		ブレイキン	
インラインスケート		ヒップホップダンス	
BMXレース	レースコース	ダブルダッチ	バスケットボールの HALFコート
スポーツライミング	ライミングウォール	バスケットボール3by 3	
		パルクール	

3. 環境整備に係るニーズ等の調査

- Webアンケートにおける主な意見（期間：平成31年2月28日～3月15日、回答数：344件）
 - 元々関心のある方が回答している面はあるが、92%の方がストリートカルチャーやエクストリームスポーツに「興味がある」と回答
 - 施設が整備された場合の管理運営についても81%の方が「何らかの形で関わりたい」と回答
 - 具体的な設備や無料講習会の開催など、誰でも楽しめるための環境整備や運営手法に関する意見が多くあった
 - 施設を整備するにあたっては、実際に施設を利用したことがある市内の愛好家や若者との意見交換が重要
- 市民車座集いにおける主な意見（開催日時：令和元年5月18日、参加者：24名、傍聴者：14名）
 - 少しずつ地域における認知度は向上しているが、迷惑だと思われる面もあり、非公式で行っている活動が多い
 - みんなが体験する機会の提供が必要であり、見てもらうことがコンテンツの理解につながる
 - 「川崎を世界へ」というテーマで、全力でできることをやっていきたい。そのためには意見交換の場を継続する必要がある

4. 環境整備におけるコンセプト

- 基本方針で掲げた「若い世代が集い賑わうまち」の具体的なイメージ
 - 市内のいたるところで、エクストリームスポーツやストリートカルチャーに興じている子どもや若者がいる風景が見られ、生活のなかに溶け込んでいる。→【日常のシーン】
 - ワールドクラスの上級者でも楽しめるレベルの施設があり、週末には関東一円から集まった若者や家族連れで賑わっている。→【非日常のシーン】
 - 上記の施設で活躍するような地域人材を核にした若者文化に関するコミュニティができていく。→【日常のシーン】
 - 世界レベルの大会からローカルな大会まで毎月のように市内で開催され、まちが賑わっている。→【非日常のシーン】
 - これらの結果、川崎に移住・定住する若者が増えるとともに、若者文化を通じて、次世代を担う子ども・若者の健やかな成長や、多様性を尊重する価値観の理解向上、健康づくりなどが行われている。→【日常のシーン】

5. 日常の施設の整備の方向性

【基本的な考え方】

- 若者文化は本市のストリートカルチャーとしてしっかり根付いているが、「若者文化」が文化としてより成熟していくには、多くの市民に認知され根付いた状態としていくことが必要
 - 市内の随所で市民が若者文化に親しんでいる光景が見られる状態になること
 - 地域人材を中心としたコミュニティが形成されていること
- 仕事や学校帰りに気軽に立ち寄って練習できる施設への要望が複数（パブコメ・Webアンケート）

- 将来的には、日常的に練習ができるような比較的小規模な施設が市内にバランス良くある状態を目指す
- 地域により確保できる用地やニーズ等に差異があるため、全てのコンテンツが同じ場所にあることを前提とはしない

【整備場所の考え方】

- 必要な面積は概ね1,000㎡程度（他都市事例から）
- 鉄道駅から比較的近傍であることが望ましい
- 夜間の利用が可能であることが望ましい
- 地域住民の理解が得られていること

- 候補地として、既存の公園や低未利用地などを想定
- 体験会などの開催により若者文化の認知度向上や機運醸成を図り、地域のなかで具体的な施設へのニーズが高まったところから整備に向けた取組を開始

【施設整備・管理運営について】

- 民間では対応できない日常の施設の整備・管理運営にあたっては、本市または利用者による手法を検討する

6. 非日常の施設の整備の方向性

【基本的な考え方】

- 若者文化をより成熟させていくため、非日常を体験できる憧れや目標となるような施設を整備する必要
 - ワールドクラスの上級者でも十分に楽しめる魅力ある施設
 - 利用者の中に「いつかはそこでプレイしてみたい」という憧れや目標が生まれるような施設
 - 近隣の大規模施設を上回る魅力を持つ施設

誰もが憧れを抱き続けるランドマーク的な施設を、まず市内に1か所整備

【整備場所の考え方】

- ①十分な面積の用地を確保でき（概ね5,000㎡以上）、②施設の着工・開設時期が見通せること（東京2020大会の開催時期前後を一つの目安）、③地域住民に配慮する必要があること、の3点を満たす必要がある。

- 一定程度の面積を有する市有地のうち、近隣の企業や港湾事業者等への配慮が必要ではあるものの、地域住民の環境に影響を及ぼす可能性が低く、既存の行政計画において非日常の施設の位置づけが可能であり、東京2020大会の開催時期の前後に施設の着工・開設できる可能性のある市有地としては、ちどり公園が候補に挙げられる。

ちどり公園において整備を図る方向で検討

【施設整備・管理運営について】

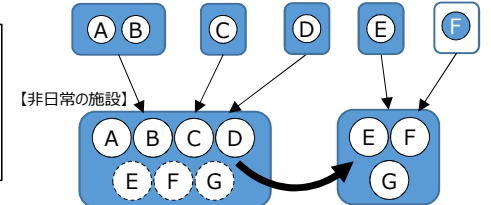
- 全国各地で整備が進んでいる非日常の施設のうち、大規模な施設については、そのほとんどが地方自治体による整備
- 施設利用料だけでは、維持管理費・整備費を含めた収支が成り立たないため、地方自治体による支援は必須
- 民間事業者ならでのノウハウを活用できるため、地方自治体単独に比べ、民間事業者が事業を実施する場合、低コストでの施設の整備・管理運営が可能
- ワールドクラスの上級者でも楽しめる、国内に前例のないような魅力のある施設を整備し、利用者の意見を踏まえながら常に改善を図るなど魅力ある施設を維持するためには、ノウハウを蓄積している民間事業者による整備・管理運営が望ましい

非日常の施設のうち大規模施設の整備・管理運営については、他の本市の施設と有する性格が大きく異なることから、既存の事業手法の枠組みではなく、新たな民間活力導入手法となる、市と民間事業者が連携する共同事業として実施することを前提として事業を推進

【具体的な整備内容について】

- 施設整備においては、場所の制約等により、計画に位置付けられたコンテンツが必ずしも整備されるとは限らず、また、既に民間等の施設が充実しているコンテンツもある
- 非日常の施設へのコンテンツの1か所集中にこだわることなく、今後、適地が出た際に、民間による整備状況も踏まえつつ、日常の施設整備の考え方に基づいて対応

【日常的に使用できる施設】



1か所の整備が難しい場合は非日常の施設を別の場所に確保

7. ソフト面での取組の方向性

- コミュニティの形成
 - 様々な分野の垣根を越えた、地域人材のネットワークを構築することによりコミュニティを形成するため、行政によるマッチング支援や意見交換をする機会の創出、大会開催の支援、既存イベントを活用したデモンストレーションを実施
- 体験会の開催
 - 若者文化の地域での理解向上と機運醸成を図るとともに、さらなる地域人材の発掘・育成につなげることを目的として若者文化の体験会を開催



8. 今後のスケジュール

	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)
ハード面		● 共同事業者選定 施設整備	● 運営開始		
ソフト面	● サウディング調査	● 地域での機運が醸成されたところから整備を検討			
	マッチング支援・意見交換をする機会の創出・大会開催の支援				
	既存イベントを活用したデモンストレーションの実施				
	体験会の開催				

若者文化の発信によるまちづくりに向けた
サウンディング型市場調査の個別対話における主な提案内容

○導入するコンテンツについて

- ・ 魅力ある施設を整備するため、特定のコンテンツ(スケートボード)に特化することが望ましい。
- ・ BMX フリースタイル専用の練習施設は関東圏には一切無いため、導入できれば関東一円から集客できる施設になる。
- ・ スケートボードと BMX フリースタイルは、一見同じ施設を使用できるように見えるが、実際には求められるものが異なる。
- ・ その他、以下の機能を導入する場合の留意点等がある。
 - パンプトラック(※1)を整備すれば、BMX などの子どもの体験スペースとしても利用可能である。
 - ダンスと BMX フラットランド(※2)の機能を導入する場合は、望ましい床面の材質が異なるのでそれぞれ別の方が望ましい。
 - スポーツクライミング系は管理面を考えるとボルダリングにするのが現実的である。
 - パルクール(※3)は一度常設すると更新が困難なため、トレーニングに適した難度が高めの基本セットがよい。

○施設の整備について

＜機能＞

- ・ スケートボード施設に常設の観覧席を設置したい。
- ・ イベント開催時に観客席を増設できるスペースを確保する必要がある。
- ・ 展望台は、スケートボードや BMX 等で使えるように改造することが望ましい。
- ・ 開業後も、魅力ある施設であり続けるため、施設等の更新は必要である。
- ・ スケートボードは、一般的な利用を想定した手すりや階段などで楽しむ文化があるが、安全性などを考慮すると、一般利用者との動線は明確に分けたほうがよい。
- ・ 非日常の施設は、施設利用者だけが入れる空間にする必要がある。

＜その他施設＞

- ・ 若者文化以外の集客施設の整備も併せてできたほうがよい。
- ・ 施設を魅力あるものにするためには、公園の一部だけでなく、公園全体を再整備する必要がある。
- ・ グラフティ(※4)用の大壁があるとよい
- ・ トイレは改修する必要がある。
- ・ 駐車場は拡充する必要がある。
- ・ 駐車場は今のスペースでよいが、イベント時は他スペースの借用などが必要である。

○施設の運営について

- ・ 営業時間は夜間までを想定している。
- ・ トップアスリート育成のためのアカデミーの運営を行う。

○事業手法について

- ・ 公園の一部を借り受けて民間事業者で整備し、その他を川崎市で整備する手法がよい。
- ・ 整備自体は公園全体を一括で行い、一部の整備費用を川崎市に負担してもらいたい。
- ・ 指定管理者制度を活用する。
- ・ 公園の一部を民間事業者に貸し付け、施設を整備・管理運営する場合、土地の貸付料は無償でないと経営は成り立たない。

○その他

- ・ 夜間の防犯対策をする必要がある。
- ・ 利用者である地元の若者自身による盛り上げが鍵となる。
- ・ スケートパークの整備にあたっては、地元の利用者からの意見を取り入れることは必須である。
- ・ 街中で行われるイベントに勝るコンテンツにしないと大規模イベントの誘致は難しい。
- ・ にぎわう場所にするためには相当魅力的なコンテンツが必要だが、逆に通常のにぎわいを求めず、知る人ぞ知る聖地を追求することが望ましい。

※1 パンプトラック

激しい起伏や傾斜がある自転車用(スケートボードやキックボードなどでも滑走可能) コース。

※2 BMX フラットランド

Bicycle Motocross (バイシクルモトクロス) と呼ばれる自転車競技の中で、平らな場所で自転車とともに回転したり、タイヤの上でバランスをとったりといった芸術性の高いトリックを競い合う種目。

※3 パルクール

フランス発祥の走る・跳ぶ・登るといった移動に重点を置く動作を通じて、フランス軍隊が発祥の心身を鍛えるスポーツ。

※4 グラフィティ

グラフィティアート(落書き芸術)の略。主にスプレーやペンキなどを用いて壁に絵を描く。

②. ちどり公園（拡張）

■現 状

項 目	諸 元
敷地形状	運河沿い約 120m×180m、高速道路沿い約 250m×70m
施 設	園路、芝生広場、展望台（船の形）、駐車場、トイレ、柵 等
植 栽	高木：ヤマモモ、マテバシイ、クスノキ、クロマツ、アラカシ、シラカシ等 低木：アベリア、トベラ、ドウダンツツジ等
周辺土地利用	運河、公共ふ頭、民間企業（工場等）、公園の一角には海底トンネルの換気塔がある。
計画地へのアクセス	川崎駅よりバスで 22 分、「東電前」下車。千鳥町地区から東扇島へ向かう主要道路に面している。東扇島北公園から地下通路がつながっている。
バス停からのアクセス	最寄りバス停より徒歩 2 分
景 観	運河部の眺望が開ける。（対岸は東扇島北公園）
利用状況	昼休憩のジョギング利用や休憩、楽器の練習をする利用者も見られる。 駐車場は昼休憩のための車を止めて車内での休憩利用。
将来計画	千鳥町 7 号岸壁を緊急物資輸送用耐震強化岸壁として整備、千鳥町再整備計画に伴ってちどり公園を拡張予定（約 60m×180m）、発災時には緊急物資などの荷捌きの場として利用。ちどり公園からの景観資源となる橋梁（東扇島水江町線）が整備予定。

■分 析

アクセス：車でアクセスする際の道路脇の入口がわかりにくく、ルート変更等の検討が必要である。

景 観：運河対岸に東扇島北公園がある。将来的には東扇島水江町線の橋梁が景観資源となる。

強剪定されている密度の高い高木に対して、景観に配慮した維持管理が望まれる。

広場から運河の眺望を船の展望台が遮ってしまい解放感がない。

自然環境：人工的な護岸や植栽のため、特に自然性は高いとはいえない。近傍地点の水質（透明度）1.2～6.5m（H20～H25 の最小値～最大値）。

利 用：利用しやすいように車のアクセスの変更や歩行者のアプローチの改善が必要である。

施 設：老朽化した施設のリニューアルが必要である。

<現況分析図>

